

行財政運営分野における意見

資料 2 - 1

	意見	区の方針
1	4の中ほどに、施設の更新は事前調整のうえ多機能化、集約化、複合化するとして、「専門性を持った第三者に意見を求め、事前調整や協議等を行う」とあるが、専門知識を持つ人だけでなく、施設を利用する区民の視点を入れることも大事ではないか。	施設利用者だけでなく、利用していない方も税負担をしており、区有施設の見直しに当たっては、多様な意見を聴取していくことが必要だと考えます。その上で専門家の意見も聞くという趣旨です。
2	「強固な財政基盤」とあるが、強固という表現は今後は難しいのではないか。今後人口減少により生産年齢人口も減り税収が減る中で、社会保障等の財政支出は増えていく。「いかなる時代であれ安定的に運営できるような財政基盤を築いていく」等の表現のほうがよいのではないか。	今後、中間答申等を取りまとめていくに当たっては、ご意見を踏まえて、記載内容、表現等を検討します。
3	6の課題解決の方向性の中に、「学校の計画的更新、コミュニティ施設の学校への集約」と並列表記があるが、学校の計画的更新は統廃合のことか。	老朽化する学校を区施設見直しの観点からどう計画的に更新するかということであり、統廃合とは切り離して考えています。
4	ふるさと納税の流出額はどのくらいになっているのか。	直近の流出が21億4,000万円で、毎年5億円程度ずつ増えています。ふるさと納税の仕組みを活用したクラウドファンディングで園庭のない保育園の子どもを広い公園に連れていく費用を募り、255万円の寄附がありました。その額を含めて流入は6,000万円程です。
5	区民意識調査では防災対策の強化、高齢者・障害者にやさしいまち、子育て支援などの三つが大きな要望になっているのだから、財政に限りはあるが、区民の要望の5年後、10年後の実現を行財政運営の中で貫くべきで、財政においても措置すべきである。区有施設においても、この三つの要望が最大限生かされる必要があると考える。	平成29年6月に策定した「目黒区区有施設見直し計画」において、「限りある財源の中で、様々な工夫により、将来にわたって、区有施設の快適性・安全性を確保し続けるとともに、施設に対する区民ニーズの変化に的確に対応していく」ことを目指して取組を進めていくこととしています。ご意見の区民意識調査での要望は、区民ニーズとして十分受け止めつつ、対応していく手法については様々な工夫をしていきたいと考えています。
6	課題解決の方向性において、「コミュニティ施設の学校への集約」とあるが、これまでの方針や計画の中にもあったのか知りたい。	平成26年3月に策定した「目黒区区有施設見直し方針」において、小学校については「少子化による児童数の減少を踏まえつつ、教育環境の整備、地域コミュニティの拠点としての機能集約、防災機能の強化を図る観点で、小学校の効果的、効率的な活用方法を検討していく」こととしており、検討の方向性として示しています。

	意見	区の考え方
7	<p>神奈川県では、入所施設の整備などに力を入れているが、生活施設だけでなく来訪施設や家庭で暮らすなど多様な選択肢を用意する必要がある。そういった社会的ニーズの変化を見据えた施設の再編をしてほしい。</p> <p>世田谷区では昨年から20～30年後の障害者施設の検討を行っているが、障害者の福祉的就労の場を作るだけでなく、企業就職を進めるなどしており、あるべき姿を視野に入れながら施設再編や社会資源づくりを行うべきだと考える。今後の地域コミュニティをどう見るとあわせて施設などハードを整備し、それが生きがいなどソフトにどうつながるかという視点が重要だと思う。</p>	<p>今後、施策を展開していくに当たっては、いただいたご意見を踏まえて対応を検討していきます。</p>
8	<p>全国的な人口減少に対し、目黒区での人口は増えていくビジョンというのがあるのではないかと。5-2に人口減少により教員が減るとあるが、これは働き方の問題ではないか。人口を減少させず税収を増やすために、一貫したビジョンも必要ではないか。</p>	<p>日本全体として「人口減少社会」となっていることは事実です。そうした中で、人口減少を緩やかにしていく施策は求められると考えます。今後、中間答申等を取りまとめしていくに当たっては、そうした視点も踏まえて、記載内容、表現等を検討します。</p>
9	<p>人口動態は自然増減だけではなく社会変動もある。外国人の流入によって増える地域も出るだろうし、開発面により許容できる人口範囲も決まってくるだろう。総合的にダイバーシティの問題も検討していくべきだろう。</p>	<p>今後、中間答申等を取りまとめしていくに当たっては、ご意見を踏まえて、記載内容、表現等を検討します。</p>
10	<p>公助が果たせる役割が小さくなり共助が重要になりつつある点は共通理解が得られると思う。ただし、共助を強調しすぎる記述になることには危惧を感じている。</p>	<p>今後、中間答申等を取りまとめしていくに当たっては、ご意見を踏まえて、記載内容、表現等を検討します。</p>
11	<p>6課題解決の方向性(2)③「経営感覚に優れ、事業改善に積極的な人材の育成」とあるが、経営だけを強調することに違和感がある。むしろ(1)の「行政ニーズへの的確な対応」が重要ではないか。</p>	<p>今後、中間答申等を取りまとめしていくに当たっては、ご意見を踏まえて、記載内容、表現等を検討します。</p>
12	<p>今後施設数の削減を行っていくに当たり、同じ機能の施設を集約していくことになるかと思うが、その際に”近隣区を含めた施設の集約化も検討していく”というような形で長期計画に(文言だけでも)盛り込むべきではないか。</p>	<p>各区の施設の考え方との調整が必要な事項であり難しい課題ではありますが、中間答申等を取りまとめしていくに当たっては、ご意見も参考にしながら、記載内容、表現等を検討します。</p>
13	<p>「持続可能な」という文言が多く使われており、SDGsの要素を盛り込んでいくべきである。</p>	<p>今後、中間答申等を取りまとめしていくに当たっては、ご意見を踏まえて、記載内容、表現等を検討します。</p>
14	<p>都の動向の項目で「都民ファーストの視点で」との記載があるが、政党名を連想させるので、文言を修正すべきではないか。</p>	<p>平成28年12月に都が公表した4年間の実施計画「2020年に向けた実行プラン」の表題を引用したのですが、今後公表する資料から削除します。</p>

意見		区の考え方
15	6課題解決の方向性(1)①で「ビルド・アンド・スクラップ」の徹底とあるが、スクラップのための行革計画とすると「スクラップ・アンド・ビルド」が適切ではないか。	平成30年3月に策定した「目黒区行革計画」において、これからの行財政改革の方向性として「今後は、今必要なこと・これから必要になることを見極め、区民の視点に立った「ビルド・アンド・スクラップ(ビルドに応じたスクラップ)」を徹底する」ことを示しており、その表現を引用したものです。
16	6課題解決の方向性(2)③で「経営感覚に優れ」とあるが、「公の経営」であることを明示すべきではないか。	今後、中間答申等を取りまとめていくに当たっては、ご意見を踏まえて、記載内容、表現等を検討します。
17	6課題解決の方向性(3)①で「コミュニティ施設の学校への集約」と記載しているが、政策の方向性を明言してよいのか。	平成26年3月に策定した「目黒区区有施設見直し方針」において、小学校については「少子化による児童数の減少を踏まえつつ、教育環境の整備、地域コミュニティの拠点としての機能集約、防災機能の強化を図る観点で、小学校の効果的、効率的な活用方法を検討していく」こととしており、検討の方向性として示しています。
18	政策課題の中で、ベテラン職員の大量退職による組織力の低下という表現があるが、そうならないよう、高齢者の再任用などにより組織力を維持するということも考えるべきである。	今後、中間答申等を取りまとめていくに当たっては、ご意見を踏まえて、記載内容、表現等を検討します。